



信州八〇 環境経営レポート

対象期間 2023年4月1日～2024年3月31日

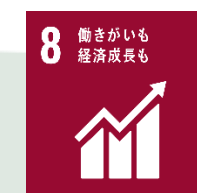
発行日 2024年6月30日



3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



8 働きがいも
経済成長も



10 人や国の不平等
をなくそう



11 住み続けられる
まちづくりを

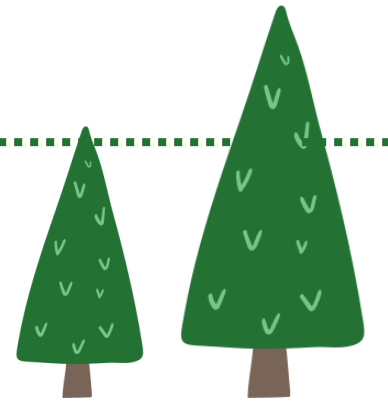


12 つくる責任
つかう責任



13 気候変動に
具体的な対策を

目次

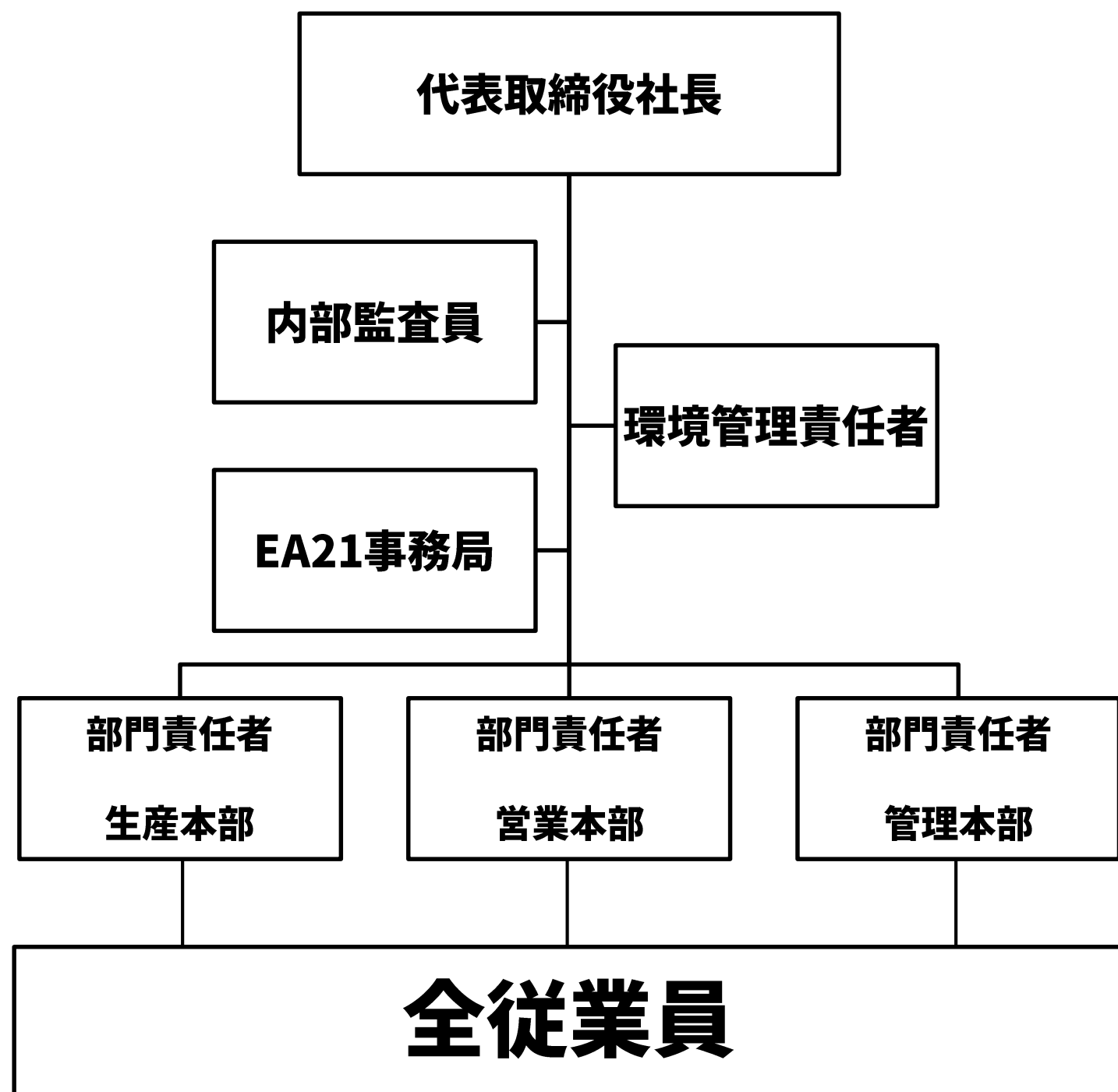


- 1 組織の概要
- 2 対象範囲及び実施体制
- 3 環境経営方針
- 4 商品紹介
- 5 環境経営目標と評価
- 6 サステナビリティ経営方針
- 7 SDGsの取り組み
- 8 環境関係法規遵守状況及び違反、訴訟等の有無
- 9 外部からの苦情などの受付状況及び対応結果
- 10 問題点の是正処置及び予防処置の結果
- 11 事故及び緊急事態の想定結果及びその対応策
- 12 環境上の緊急事態対応に関する試行及び訓練結果
- 13 代表者による全体評価と見直し等

組織概要

社名	信州ハム株式会社
代表者	代表取締役社長 堀川善弘
本社所在地	〒386-8686 長野県上田市下塩尻950
連絡先	TEL 0268-26-8686 FAX 0268-26-8611
事業内容	ハム・ソーセージの製造・販売、及び総菜の販売
環境管理責任者及び担当部署	環境管理責任者 廣田豊 担当部署 経営企画部
認証・登録の対象組織・活動	登録組織名 信州ハム株式会社 対象事業所外 本社上田工場 東北営業所 神奈川営業所 東京営業所 北陸営業所 名古屋営業所 埼玉営業所 関西営業所 広島営業所 静岡営業所 新潟営業所 長野営業所 ※2026年3月までに全社対象予定

実施体制



役割・責任・権限	
代表取締役社長	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営における統括責任 環境経営方針の策定、見直し 環境経営目標、環境経営企画書を承認
内部監査員	<ul style="list-style-type: none"> 環境に関する内部監査の計画 環境に関する内部監査の実施、報告
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営の構築、管理、実施 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境活動レポートの確認
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動の実績集計 環境経営レポートの作成、送付 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施
部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> 各部門従業員へ環境経営方針の周知 各部門の問題点発見、是正、予防処置の実施 各部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解、環境改善における提案 自主的・積極的な環境活動への参加

環境経営方針

基本方針

創業以来、信州の澄んだ空気と水に恵まれ、爽やかなハーブの薫る緑の地の、ハム造りに最も適した自然の恵みを受けてきた。また、美味しさと安全にこだわってグリーンマーク商品、高級品などの特徴ある商品を作りあげてきた。この恵まれた自然を守る為、私たちは、自然と人類を愛し地球環境問題に全社上げて取り組み、かけがえのない自然を大切に、資源・エネルギーの環境に調和した利用により、地域と地球の環境保全を積極的に推進し、環境経営の継続的改善を誓約いたします。

行動指針

1. 環境関連諸法規等の遵守
2. 環境管理体制の充実
3. 環境負荷低減
4. 廃棄物の削減
5. 省資源、省エネルギーの促進
6. グリーン調達の促進
7. 啓発活動の実施
8. 環境に配慮した商品又はサービスの提供
9. 環境経営方針は全従業員に向け周知する。

改定記録

2001年9月3日 制定日
2023年6月1日 基本方針 一部改訂、行動指針 項目8、9 追加

代表取締役社長 堀川善弘

商品紹介



安心にまっすぐ。

<グリーンマーク>とは、発色剤・着色料・保存料・リン酸塩を使用しないでつくられた信州ハムのハム・ソーセージに付けられるシンボルマークです。

信州ハム

作るのほかに、
 使用する材料は、
 非常に衛生的で、
 簡単に衛生管理
 しやすいように
 配慮されています。
 商品としましては、
 最新の設備で、
 安定した品質を
 保つて提供して
 います。

主な商品一覧



主な商品一覧



発売以来変わらぬ美味しさを守り続ける
 信州ハム伝統の味。豊かな味わいのハ
 ム・ソーセージです。

環境経営目標と評価 ①



項目	単位	基準 (2021年度)	実績 (2023年度)	目標 (2023年度)	目標 (2024年度)	目標 (2025年度)
二酸化炭素 排出量原単位	t-CO ₂ /t	0.668	0.677	0.661	0.648	0.641
総二酸化炭素 排出量	t-CO ₂	6381	6431			

※ 中部電力ミライズ CO₂ 排出係数：0.388 t-CO₂ / 千kwh (2021年度)
 ※ 原単位の指標：包装重量 t (2021年度実績 9554 t)

二酸化炭素排出量の削減（電気・ガス）

計画内容	エネルギー使用の効率化を推進し 排出量原単位 年1%削減。
評価	ボイラー運転設定の見直しや 高効率ブロワポンプ導入を行ったが 削減には至らず。 製品不良率が悪化に比例して原単位も悪化してしまった。
次年度以降 の取り組み	エアリーク調査実施。 高効率温水ボイラー導入。 排水処理場の曝気液移送方式をポンプからエアリフトへ変換。



環境経営目標と評価 ②



項目	単位	基準 (2021年度)	実績 (2023年度)	目標 (2023年度)	目標 (2024年度)	目標 (2025年度)
動物性残渣 排出量原単位	t / t	0.054	0.081	0.053	0.051	0.050
総動植物性残渣 排出量	t	513	768			

※ 中部電力ミライズ CO₂ 排出係数：0.388 t-CO₂ / 千kwh (2021年度)
 ※ 原単位の指標：包装重量 t (2021年度実績 9554 t)

動植物性残渣排出量

計画内容	製品不良率を改善し 排出量原単位 年2%削減。
評価	原料事情による不良と機械構造由来による不良が歩留り率を低下させ目標値より排出量を発生させた要因となった。
次年度以降の取り組み	真空充填機とスライサー2機導入し不良率を削減させる。 生産機器のメンテナンス強化。



環境経営目標と評価 ③



項目	単位	基準 (2021年度)	実績 (2023年度)	目標 (2023年度)	目標 (2024年度)	目標 (2025年度)
廃棄プラスチック 排出量原単位	t / t	0.030	0.030	0.029	0.027	0.026
総廃棄プラスチック 排出量	t	284	286			

※ 中部電力ミライズ CO2 排出係数：0.388 t-CO2 / 千kwh (2021年度)
 ※ 原単位の指標：包装重量 t (2021年度実績 9554 t)

廃棄プラスチックの削減

計画内容	生産体制の効率化、自動化を図り 排出量原単位 年3%削減。
評価	生産機械のトラブルによりプラ包材が増加。
次年度以降の取り組み	生産機器のメンテナンス強化。 生産効率の見直しで包材の削減をする。

環境経営目標と評価 - ④



項目	単位	基準 (2021年度)	実績 (2023年度)	目標 (2023年度)	目標 (2024年度)	目標 (2025年度)
汚泥排出量原単位	t / t	0.075	0.077	0.073	0.068	0.066
総汚泥排出量	t	720	728			

※ 中部電力ミライズ CO2 排出係数：0.388 t-CO2 / 千kwh (2021年度)
 ※ 原単位の指標：包装重量 t (2021年度実績 9554 t)

汚泥量の削減

計画内容	排水処理施設の改善を図り 排出量原単位 年3%削減
評価	工場で使用している洗剤の影響で、排水中の油脂が分離できず汚泥の含水率が高くなってしまった。油脂分離槽で油脂を効率良く浮かせる装置のテストを行っているが まだ実用段階にはなっていない。
次年度以降の取り組み	汚泥脱水機更新、油脂分離槽改良、薬剤の見直し



環境経営目標と評価 ⑤



項目	単位	基準 (2021年度)	実績 (2023年度)	目標 (2023年度)	目標 (2024年度)	目標 (2025年度)
食品循環資源の再生利用率	%	100	99	100	100	100

※ 中部電力ミライズ CO₂排出係数：0.388 t-CO₂/千kwh (2021年度)

※ 原単位の指標：包装重量 t (2021年度実績 9554 t)

食品循環資源の再生利用率

計画内容	食品循環資源の再生利用率100%の維持
評価	異物混入により堆肥化できず、焼却処分したモノが約700kg発生してしまった。
次年度以降の取り組み	異物混入したモノの再生利用方法検討。

環境経営目標と評価 ⑥

項目	単位	基準 (2021年度)	実績 (2023年度)	目標 (2023年度)	目標 (2024年度)	目標 (2025年度)
水使用量原単位	千 m ³ / t	0.037	0.027	0.035	0.034	0.033
総水使用量	千 m ³	358	257			

※ 中部電力ミライズ CO₂排出係数：0.388 t-CO₂ / 千kwh (2021年度)
 ※ 原単位の指標：包装重量 t (2021年度実績 9554 t)

水使用量の削減

計画内容	節水PR 使用量原単位 年3%削減
評価	2022年度は積極的な漏水点検を行い大幅な削減に成功した。 2023年度も節水PRなどを行い緩やかにではあるが削減が進んでいる。
次年度以降の取り組み	従業員に節水の協力を呼び掛ける。 漏水点検の実施。 節水器具導入(トイレ)。



サステナビリティ 経営方針

信州ハム
信州ハム株式会社

社訓 誠意と真実と愛情

経営理念

1. よりよい品を、より安く、より衛生的に
2. お客様の健康と幸せを守ります
3. 社員の生きがいと幸福を守ります

2047年の創業100周年に向けて、気候変動や、食糧問題、国内人口の少子高齢化といった環境変化の中、人・社会・地域・環境を配慮したエシカル消費に向き合うことにより、持続可能な社会の実現と企業価値の向上に取り組んでまいります。

経営資本

- グリーンマークを主軸とする独自製造技術
- ドイツ食肉マイスター認定保有者による食肉加工のノウハウ
- 厳格な原料調達基準に基づく、品質安全や旨味のノウハウ
- 全国小売店さまとのネットワーク
- 自治体をはじめとする地域とのつながり(信州、軽井沢ブランド)
- 天然水をはじめとする豊かな自然環境

重要課題

- 1 お客様のここところとからだの健康創出
- 2 未来に向けた食育・啓発
- 3 はたらきがいのある職場づくり
- 4 持続可能なサプライチェーンの構築
- 5 持続可能な地球環境への貢献

取組方針

- お客様のここところとからだの健康に配慮した、健康志向及び高品質商品シリーズ※を強化してまいります。
- 「食」について考える習慣や知識、「食」を選択する判断力を楽しく身に付けるための取り組みを行ってまいります。
- 全従業員の健康を第一に、従業員のワークライフバランスに配慮した働きがいのある職場環境づくりを行います。
- 品質に対する安全・安心への取り組みに加え、環境や人権を配慮した持続可能なサプライチェーンの構築を目指します。
- 限りある原材料やエネルギー資源から生み出された商品を有効にお客様にお届けするため、製造・流通時の食品廃棄物削減と、省エネルギーに取り組みます。

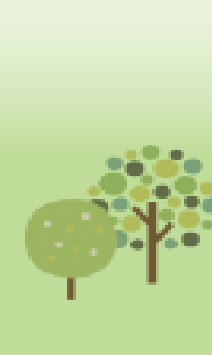
2047年度目標値

- 健康志向及び高品質商品シリーズの売上構成比：80%以上
※グリーンマーク、軽井沢シリーズ
- 食育関連イベントの開催/協賛件数：年12回
- 従業員エンゲージメント調査：毎年実施
- CSR調達方針賛同率：80%以上
- 食品廃棄物：2022年度比50%削減
- 温室効果ガス排出量：2014年度比30%削減

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な
社会の実現



サステナビリティ経営方針に基づく取り組み



健康経営優良法人2024
Health and productivity

で限な取撲し
長期品の餓認
人 社 味 食 こ 飢 認
法 社 賞 い、と
O 締。しりし
P 取す難おとあ
N 表まがて環で
る 代いと一み
て 社てこの組
っ 弊つるた標取
行 行てわべい目な
を に携並て発要
等」てにせ開重
援 州し頭さなす
支 信と店供能く
料 ン事や提可無
食 イ理品に続を。
・ラが商的持等す
資 ト川た極は平ま
物 ッ堀っ積み不り
活 ホる迫を組やお
生 「あがどり滅て



ストレッチ研修



睡眠研修



メンタルヘルス研修

ホットライン信州主催イベント

対面
オンライン
ハイブリット開催
参加無料

共食でつながるフェスタながの 2023

～『共食』と『食育』でつなぐ子ども居場所物流整備事業～

2023.10/6 (金)
13:30～16:00

会場 デリシア五明研修センター
長野市篠ノ井布施五明260
※会場への直接の連絡はご遠慮ください

第1部 13:30～

長野県県民文化部こども若者局
次世代サポート課長 塩原 昭夫 氏
・県における
こどもカフェの推進について

農林水産省関東農政局
経営・事業支援部食品企業課
食品企業専門官 関口 泰雄 氏
・行政が出来る、
食のある居場所づくり支援について

信州ハム株式会社
代表取締役社長 堀川 善弘 氏
・「信州ハム」の食育活動

長野牛乳株式会社
代表取締役社長 瀧本 孝宏 氏
・物流・保管の支援について

第2部 14:55～

一般社団法人全国食支援活動協会
専務理事 平野 覚治 氏
・「ミールズ・オン・
ホイールズロジシステム」と連携の事例

特定非営利活動法人NPOホットライン信州
専務理事 青木 正照 氏
・「共食」と「食育」の
協働でつながる力!!

登壇者による
パネルディスカッション・質疑応答

いずれの県でも保管・物流の問題、
寄贈の減少等が課題となっています。
子どもや高齢者、障がい者、外国に
ルーツをもつ方など、誰もが参加で
きる地域の居場所が継続できるよう、
課題解決に向け協議する場にたく、
皆様のご参加をお待ち申し上げます。

参加対象者
物流事業社、食品事業社、企業、行政、
自治体、社会貢献活動に関心のある方

主催：特定非営利活動法人 NPOホットライン信州
(信州子ども食堂ネットワーク) ☎0263-75-8368

共催：(一社)全国食支援活動協会

協賛：長野牛乳(株)・信州ハム(株)・(株)デリシア

後援：長野県・長野市・長野県社会福祉協議会

HP Facebook
お申込み
こちら！
10月5日まで
会場参加は当日可！
https://forms.gle/BALkCom5vnAfnHMB



信州ハムSDGs基金は、持続可能な美しい信州の自然環境やそこにある子供たちの学び・育ち、地域の暮らしを守っていくための活動を応援する助成プログラムです。2023年度は、「軽井沢助成」「秋助成」を実施いたしました。

環境関係法規遵守状況の確認及び違反、訴訟等の有無

環境関連法規等	摘要事項	提出資料	提出頻度	遵守状況	遵守確認年月日
大気汚染防止法	設置・変更及び廃止の届出	煤煙測定	年2回	○	23年7月3日
廃棄物処理法	定期報告、マニフェスト管理	産業廃棄物処理計画マニフェスト	年1回	○	23年6月20日
水質汚濁防止法	規制基準の順守	水質検査	月1回	○	23年11月22日
PRTR法	定期報告	PRTR届出	年1回	○	23年4月1日
フロン排出抑制法	定期点検実施及び記録保管	漏えい量報告	年1回	○	23年4月20日
省エネ法	第1種エネルギー管理指定工場、定期報告	定期報告 中長期計画	年1回	○	23年7月26日

環境関連法規等	摘要事項	提出資料	提出頻度	遵守状況	遵守確認年月日
食品廃棄物リサイクル法	食品廃棄物多量発生事業者、定期報告	定期報告	年1回	○	23年6月20日
容器包装リサイクル法	販売した商品に使用した容器や包装が、エンドユーザー（お客様）の手元でゴミとなるものを容器包装リサイクル法に従いリサイクルを行う	定期報告 （自社でのリサイクルが不可能のため、専門の協会に委託し、リサイクル事業を実施する	—	—	—
騒音規制法	規制基準の順守	長野県環境部発行 公害関係基準のしおりに準ずる	定期測定	夜間騒音、 周囲への影響に配慮	—
振動規制法	規制基準の順守	長野県環境部発行 公害関係基準のしおりに準ずる	定期測定	—	—
工場立地法	敷地面積に対する生産施設面積の割合が15～40%以下 敷地面積に対する緑地等の環境施設面積の割合が25%以上で、うち緑地が20%以上	—	—	—	該当せず
消防法	例 消火器の管理、危険物貯蔵施設設置許可及び定期点検、危険物取扱者の届出	消防用設備等点検結果報告書	年2回点検 3年に1回届出	○	24年2月14日

※過去3年間環境法規、条例等に関する違反、訴訟等はありません。

外部からの苦情等の受付状況及び対応結果

対象期間における外部からの苦情はございませんでした。

問題点の是正処置及び予防処置の結果

- ・CO2削減目標については、排出量年1%削減を掲げていたが、変圧器、エアーコンプレッサーを高効率のモノへ更新を行ったが、環境への負荷が高い商品の需要が高まり、約1%増加してしまった。
- ・廃棄物については、年3%削減を掲げていたが、原料事情の悪化に由来する製品不良が増加してしまい廃棄量が増加してしまいました。

事故及び緊急事態の想定結果及びその対応策

緊急事態の想定：生産機械の爆発による火災発生への初期消火

- ・訓練実施日：2023年12月25日
- ・参加者：当社従業員207名、関連会社25名 ⇒ 計232名
- ・訓練概要：

①各職場での消火器の設置箇所、避難経路(非常口)を確認

②消火器の使用方法的講習

- ・評価：各職場の集礼時に説明と講習を実施。消火器の使用方法的については、

1,安全ピンを抜く⇒2,火点に向けてホースを構える

⇒3,レバーを握って「自分の足元から火点に向かって」、

「火点周囲の燃えている箇所全体へ」消火液をかける

この3手順を慌てず行うこと、天井まで燃えだしたら避難に切り替えること、を確認した。

日常から扱う内容ではないため、定期的に訓練を繰り返すこととする。

外国人用パンフレット



環境上の緊急時対応に関する試行及び訓練結果

緊急事態の想定：本社工場の大規模な火災発生に対する、公的機関の消火訓練

- 訓練実施日：2024年3月3日
- 参加者：堀川社長(来賓)、従業員16名(見学者14名、消防団員2名)
上田市消防団 第2方面隊63名、地元自治会等来賓14名
※上田中央消防署職員2名立ち合い

• 訓練概要：

本社工場で大規模火災の発生を想定。従業員の避難が完了した後、地元消防組織がどのように消火活動を行っていくかを検証すべく、訓練企画を共同で作成し、実際に消火訓練を実施していただいた。構内の防火水槽、周辺の消火栓と自然水利の3方向からポンプ車にて受送水を行い、火点へ向けて放水を行った。

訓練終了後に、各分団の活動内容を確認。消防署員より訓練の講評をいただいた。

※当日は-7℃の寒冷につき、送水の段階でホース内の凍結が発生。

凍結していないポンプ車の先でホースを分岐させることで、

多方向からの放水に対応することができた。

• 評価：

地元消防組織と訓練計画から打ち合わせをすることにより、建物周辺の水利や消防車両の進入経路・部署位置について理解を深めることが出来、有事の際に消防車両の誘導が可能となった。

※放水経路図



※実際の訓練の様子



代表者による全体評価と見直し等

2023年度の環境経営目標に対しての評価は6項目中1項目達成できたが、ほぼすべての項目で未達に終わってしまった。未達理由の多くは、現在各部署で進めている具体的な施策・プロジェクトの目標とリンクしているものの社員一人一人の提案・行動に至らず、「絵にかいた餅」状態であり、今後如何に日々の従業員の仕事の中で、エコアクション21の活動が会社を存続・成長させていく為に必要であるかと再認識させ、P-D-C-Aを廻して行きます。

まずは、社内の具体的な行動計画の策定・実行等を、広く社内外にPRすることにより、当社のステークホルダーをはじめ従業員の関心を高め、共通の目的に向かって一丸となって取り組んでいきたいと考えております。環境経営は単なる法令遵守に留まらず、企業力（競争力・従業員のエンゲージメント）を高め、持続可能な経営につながっていくかと思えます。

全社的な取り組みを強化し、目標達成に向けた具体的なアクションを継続的に推進してまいります。

環境経営方針、環境経営目標・計画、実施体制他いずれも変更はございません。